

年齢	24	歳	性別		男	○	女	初診		作成日	2017.11.12
主訴	左耳哄鳴（神経性耳鳴）2年										
病 史	患者は2年前から、明らかな原因が分からないまま耳内に哄鳴が出現し、時に発作し、時に止む。										
現病歴	いつも情緒が不暢になったり、或いは悩んだり怒ったりすることにより、鳴響が加重し、聴力を防碍する。曾て、某医院での五官科の検査で神経性耳鳴との診断を受けた。服薬治療は無効だった。故に私に鍼治療を求めて来た。										
四診所見 (検査)	【望診・聞診・問診・切診】 ①神志清楚 ②面色正常 ③行動は自らできる ④心肺正常 ⑤肝脾肋下には何も触れない ⑥いつも情緒が不暢になったり、或いは悩んだり怒ったりすることにより、鳴響が加重し、聴力を防碍する。										
舌 診	⑦舌質淡 ⑧苔薄白										
脉 診	⑨脉弦細										
病位弁証	【五臓：肝・心・脾・肺・腎】【六腑：胆・小腸・胃・大腸・膀胱】【奇恒之腑：脳・隋・骨・脉・女子胞・命門・精室】										
八綱弁証	【表証・裏証・半表半裏証】【寒証・熱証】【虚証・実証】【陰証・陽証】										
病性弁証	【気病弁証】 気虚・気陷・気滞・気逆（肺気・胃気・肝気）・気随血脱・気虚失血・気血両虚 【血病弁証】 血虚・血熱・血瘀・気滞血瘀 【津液不足弁証】 【津液病弁証】										

病因弁証	【六淫弁証】 風・寒・暑・湿・燥・火 【七情弁証】 喜・怒・憂・思・悲・恐・惊 【飲食勞倦弁証】 傷食・中毒・過勞・過逸
病 機	
証 名	
弁証分析	
主要な 弁証類型	
治則治法	
配穴処方	
処方意義	
伝 変	
按 語	